

アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (コ02)

研究組織 友田正彦、安倍雅史、浅田なつみ、ヴァルエリフベルナ、山田綾乃、柴田みな、高橋奈緒、長尾琢磨、岡崎未来、山潟愛（以上、文化遺産国際協力センター）、間倉裕生、山田大樹（客員研究員）、福嶋啓人（奈良文化財研究所）

目的 東南アジア、西アジア及びその周辺地域における文化遺産の保存活用に関する調査研究の実施並びに当該地域で行われる文化遺産の保存修復事業への協力を通じて、我が国が有する文化遺産保護に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

成果

- カンボジア アンコール・タネイ寺院遺跡保存整備事業に対する支援等
 - アンコール・シエムレアプ地域保存整備機構 (APSARA) との協働を継続した。同寺院東門修復に関して小規模な追加的作業を実施したほか、排水状況改善を含む同門周辺での発掘調査を行った。(2022 (令和4) 年6月9日～7月3日、11月1日～19日派遣)
 - 中心伽藍において危険箇所の詳細調査を行い、リスク評価を踏まえた安定化措置等を行った。(同)
 - 東門西方十字テラス前方にて、遺構分布確認のための発掘調査を実施した。(11月派遣)
 - アンコール・サンポーブレイクック保存整備国際調整委員会 (ICC-Angkor) 第36回技術会合及び第29回総会に参加した。(2022 (令和4) 年12月12日～18日派遣)
- ネパールの被災文化遺産保護に関する支援
 - JICAが専門家を派遣して実施中の、ハヌマンドカ王宮内シヴァ寺院の復旧に向けた修理設計作業を支援するため、基壇内部から採取した試料等の科学的分析を保存科学研究センターの協力により実施した。
 - カトマンズ盆地の歴史的集落保存に関して支援スキームの再開に向けた地元自治体当局との協議等を行った。(2022 (令和4) 年8月22日～9月2日派遣)
- ブータンの歴史的建造物保存活用に関する協力
 - ブータン内務文化省文化局 (DOC) と協働し、同国中東部地域において伝統的民家の保存に向けた予備的調査を実施するとともに、DOCとの間で新規協力覚書 (MOU) を締結した。(2022 (令和4) 年11月5日～15日派遣)
- バーレーンの文化遺産保護に関する協力
 - 新規協力事業立ち上げのため、バーレーン国立博物館との協議及び協力対象遺跡等の現地調査を行った。(2022 (令和4) 年7月22日～25日派遣)
 - 同国内に多数残るイスラーム墓碑をデジタル記録する新規事業の第1次ミッションとして、国立博物館及びアル・ハミース・モスク所蔵の47点を対象に三次元計測作業を実施した。(2023 (令和5) 年2月11

日～16日派遣)

- シンポジウム開催及び技術研修の実施
 - バーレーンの考古遺産と国際協力に関する国際シンポジウムを、外国人専門家4人を招聘して東京 (2022 (令和4) 年12月11日) と金沢 (14日) にて開催した。
 - メソポタミア考古学教育研究所と共催でオンラインシンポジウム「メソポタミアの水と人」を開催した。(2022 (令和4) 年10月22日)
 - 所内職員を対象に、ドローンや三次元写真測量等を用いたデジタルドキュメンテーション技術に関する研修会を外部講師を招いて実施した。(2022 (令和4) 年4月19日、9月8日、10月21・24・28日)
- その他
 - ハノイで開催されたタンロンーハノイ皇城遺跡調査開始20周年記念シンポジウムに招聘されて講演を行った。(2022 (令和4) 年9月6日～10日派遣)
 - ユネスコバンコク事務所の依頼により、産業遺産であるタイ国鉄マッカサン車両工場の見学及び現地専門家との意見交換を行った。(2022 (令和4) 年12月13日)

論文

- Hiroki Yamada: Governance Challenges in Nepal After the Gorkha Earthquake, in Light of the World Heritage Convention Post-trauma and the Recovery Governance of Cultural Heritage Springer pp.11-51 22.12

発表

- 浅田なつみ：「ネパール2015ゴルカ地震後の復興 歴史的建造物修理の体制と手法について」東京文化財研究所令和4年度第3回総合研究会 23.1.10 ほか6件

刊行物

- 『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 令和4年度成果報告書』 23.3
- 『ブータンの伝統的民家建築保存のための予備調査概報』 23.3